

建築教育委員会 活動概況(2010～2012年度)

主査名:2010年度 稲葉 武司

2011～2012年度 石川 孝重

傘下の小委員会・WG一覧:

● 直属WG

— 教育シンポジウムWG

— 工高教育WG

— 進路調査WG

● 建築教育基本構想小委員会

— 都市計画WG

— 構造教育基本構想WG

— 環境設備系WG

— 建築計画系WG

— 材料・施工教育基本構想WG

● 建築教育将来計画小委員会

— 建築生産系技術者教育WG

— 子ども教育WG

— 市民啓発WG

— 住教育WG

— BIM教育WG

— アウトリーチWG

— フィールドワーク・スタディWG

— 防災教育WG

主査 阿部 浩和 (大阪大学)

主査 田中 和夫 (東京都立田無工業高等学校)

主査 長澤 夏子 (早稲田大学)

主査 元岡 展久 (お茶の水女子大学)

主査 小林 正美 (明治大学)

主査 岡田 章 (日本大学)

主査 須永 修通 (首都大学東京)

主査 伊藤 俊介 (東京電機大学)

主査 田村 雅紀 (工学院大学)

主査 平田 京子 (日本女子大学)

主査 浦江 真人 (東洋大学)

主査 小松 尚 (名古屋大学大学院)

主査 伊藤 香織 (東京理科大学)

主査 妹尾 理子 (香川大学)

主査 衣袋 洋一 (芝浦工業大学)

主査 三輪 律江 (横浜市立大学)

主査 齊藤 理 (山口県立大学)

主査 伊村 則子 (武蔵野大学)

2010年度の活動から

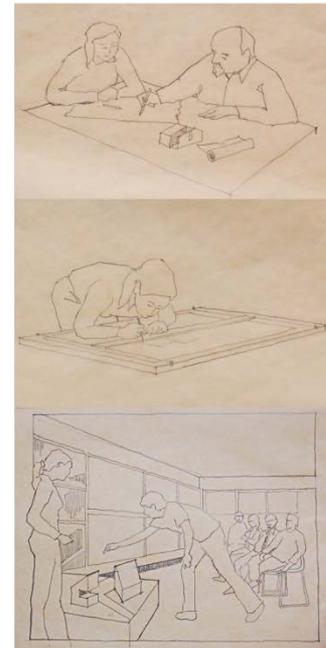
2010年度大会
建築教育部門

／研究協議会

「建築スタジオの
現象学」

建築スタジオの現象学

Notes on Architectural Design Studio Phenomenology



2010年度大会(富山) 建築教育部門 研究協議会

日本建築学会 建築教育委員会

資料

2010年度大会

建築教育部門／研究協議会

「建築スタジオの現象学」

2008年の建築士法改正では、大学院のインターンシップ関連授業開講の審査基準に〈スタジオ〉という言葉を用いているが、その形は明確でない。

スタジオ教育を実践しておられる4名の講師による主題解説と討論を行った

- 「アメリカのスタジオに学ぶ」 田中友章(明治大学)
- 「デジタルスタジオのモデル」 衣袋洋一(芝浦工業大学)
- 「スタジオの中のスタジオ」 北山恒(横浜国立大学)
- 「デザイン・ビルド・スタジオ」 西村伸也(新潟大学)

2011年度の活動から

2011年度大会 建築教育部門

／研究協議会

「建築教育の革新 に向けて —プロフェッショナルに 必要な力を学生が学 ぶ新しい方法—

社団法人 日本建築学会
日本建築学会大会（関東） 建築教育部門—研究協議会

建築教育の 革新に向けて

—プロフェッショナルに必要な力を学生が学ぶ新しい方法

早稲田大学 早稲田キャンパス
東京都新宿区西早稲田 1-6-1

14号館 B101室

8月23日（火） 14:00～17:00

未曾有の震災が契機となり、社会、都市、建築、生活などの新しいあり方についてさまざまな声援が求められている。このような社会の要請に応えるには、既存の建築知識体系を習得し、実行できるだけでなく、まったく別のスキルが必要と要求されている。

建築を教える教員も

資源の乏しい日本では、今後、ますますこのような社会で役立つプロフェッショナルを育てることが、次世代の貴重な人的資源となるだろう。国境を越える世界的競争の中で、日本の独自性を打ち出しつつ国際的競争力をもった専門家を育成が重要な点で、建築家や建築関連教育者の役割をどのように育成するか、建築教育者が率先して実行できる教育手法の根本的見直しが求められている。このようなスキルは、これまでモチベーションの高い個人の資質と思われていて、社会にて問題に直面してから培われるものと考えられてきた。

しかし、若い学生時代にこそ、こういったスキルのきっかけをつかみ、トレーニングする必要がある。

建築を学ぶ学生も

たとえば学生に求められる力として、設計や専門の内容を社会・建築単にはたかたか習得する力、社会や建築とコミュニケーションする力、チームでコラボレーションしてより個性を発揮する力、さらに世界を客観的に見つめる世界的視野力ともいうべきスキル、またこれまでの慣習にとらわれない発想的なアイデアを生み出すスキル、そしてそれを実現するための行動スキルが併せて産み出される。いわばイノベーションする力などが挙げられる。

そこで、従来の方法やゴールにとらわれず、先進的な教育事例を行なわれている講師を招待し、まさに実践的な教育的効果や、方法論をご紹介いただく。

教員は「建築教育の革新」について議論する場、また、学生が「学び方」を学ぶ場とした。

司会 片岡 久美子（早稲田大学）・ 顧問 伊藤 隆雄（早稲田大学）・ 記録 長瀬 真子（早稲田大学）

1. 主旨説明 石川孝重（日本女子大学、建築教育委員会委員長）
2. 主題解説

①心をうごかすコミュニケーション力
—建築メディアが社会に対してできること—
寺田 真理子（横浜国立大学）

Y-GSA（横浜国立大学大学院・建築都市スクール）スタジオマネージャー
Y-GSAは、4名の教授・プロフェッサー・アーキテクトの「スタジオ教育」により、建築家を養成する少人数の専攻プログラム、2年間で半期ずつ、4つのスタジオに所属し、数々の専門的建築・都市プロジェクトに学生が従事する。Y-GSAでは特に、雑誌・展覧会・シンポジウムなどのメディア発信に力を入れ、社会との新たなコミュニケーションを生んでいる。
<http://www.y-gsa.jp/>

②世界を変えるイノベーション力
—東京大学 i.schoolの挑戦—
田村 大（東京大学）

東京大学 i.school Founding Director / 専門イノベーション
東京大学 i.schoolは、東京大学・初の創造化センターが2009年より開始したイノベーション教育プログラム。「人間性」の視点を軸とし、イノベーションを主体的に起こす人材育成を目的とする。実践的なテーマに対し、東京大学全学より集まる学生（大学院生中心）とスポンサー企業から派遣される社会人の混成チームで、幅広いデザインメソッドを活用したワークショップを通じた取り組みを行う。
<http://i.school.t.u-tokyo.ac.jp/>

③個性をひきだすコラボレーション力
古谷 誠章（早稲田大学）

早稲田大学創造工学部建築学科・教授 / プロフェッサー・アーキテクト
UNESCO/UIS 建築教育基準に基づき、また日本技術者認定機構（JARE）による学部教育と、続く大学院のカリキュラムを整備している早稲田大学建築学科。設計の門外漢に設計、制作を現場に体験する機会を増やすため、個人の資質を伸ばす実習設計でも、専攻と工学など専門性の異なる学生による混成チームで行う。コラボレーションの設計教育が、個性を発揮する場を醸成する。
<http://www.arch.waseda.ac.jp/>

3. 討論
4. まとめ 平田京子（日本女子大学）

主催：日本建築学会 建築教育委員会
<http://news-sv.aj.or.jp/edu/s0/>

詳しくはホームページ <http://news-sv.aj.or.jp/talka/2011/index.html>
または「建築雑誌 7月号」に掲載されている2011年度日本建築学会大会（関東）の開催案内を参照してください。
参加に当たっては、建築学会大会の参加費をお送りください。料金は不要です。

お問い合わせ先 日本建築学会事務局 03-3456-2051

大会参加費（建築学会会員外）
一般 8,000円
大学院生 6,000円（学生会員）
学部学生 無料（学生会員提示）

2011年度大会

建築教育部門／研究協議会

「建築教育の革新に向けて

ープロフェッショナルに必要な力を

学生が学ぶ新しい方法ー」

今建築を学ぶ学生に求められる<3つの力>について、実践的な教育の効果や、方法論を紹介し議論した。

- 心をうごかすコミュニケーション力 ー建築メディアが社会に対してできること
寺田 真理子 (横浜国立大学)
- 世界を変えるイノベーション力 ー東京大学i.schoolの挑戦
田村 大 (東京大学)
- 個性をひきだすコラボレーション力
古谷 誠章 (早稲田大学)

2012年度の活動から

2012年度大会特別シンポジウム

「今のままでいいのか、日本の建築教育」

主催：全国建築系大学教育連絡協議会
産学連携建築教育連絡会議
建築教育本委員会
建築教育認定事業委員会
建築教育国際化特別調査委員会

第1部 パネルディスカッション
「現在の日本の
建築教育の問題点を
えぐる」



2012年度大会 特別シンポジウム

「今のままでいいのか、日本の建築教育」

第1部PD「現在の日本の建築教育の問題点をえぐる」

日本の建築教育は、専門分野の分化と総合(ホーリスティックな教育)が特徴。
3分野を代表して2名ずつ発表の後、パネルディスカッションに時間を割いた。

<計画>

敷地を越え、まちや地域社会へ展開する人材の育成
拡大するデザインの世界と建築教育の展望

小林正美(明治大学)
門内輝行(京都大学)

<構造>

構造教育における“建築の翼” 実現力と想像力を結ぶもの

斎藤公男(日大名誉教授)
久田嘉章(工学院大学)

“生きた”構造系教育

<環境>

バーチャル学生に環境の身体体験を
建築環境学・住環境教育の展開と教育再生

前真之(東京大学)
宿谷昌則(東京都市大学)

工高教育WG

主な活動：研修会・見学会の実施、調査研究

①「工業高校建築教育研修会」

工業高校等で、建築教育を担当している教員を対象とした研修会
2012年度で第43回を迎えた。2日間で講義・現場見学を行う。

毎年テーマを設定して実施している。反響が大きい。

2010年度：環境・倫理・学習指導要領・教育内容アンケート報告

2011年度：構造・材料・歴史・研究協議

2012年度：計画・環境・防災・研究協議



工高教育WG

②「見学会」

研修機会の提供、建築教育の普及を目的に、2007年度より実施
2008年度から東日本・西日本で年2回実施する形式となる。

近年の実施内容

2010年度「三溪園の建築見学」・「平城宮跡、唐招提寺、薬師寺の見学」

2011年度「世界遺産姫路城」(東日本大震災により1回のみの実施)

2012年度「日本橋界隈の歴史的建築物を巡る」

「近江八幡におけるW・M・ヴォーリズの建築見学」



工高教育WG

③教育内容の調査研究・提案

「建築系学科における教育内容等に関するアンケート調査」

目的：建築系の学科を設置する専門高校の現状を把握

課題と問題点を抽出し、今後の建築教育の在り方を模索

対象：建築系の学科を設置する全国の国公立の高等学校（262校）

期間：2010年1月12日～4月5日

報告：2010年に実施した「第41回 工業高校建築教育研修会」で報告

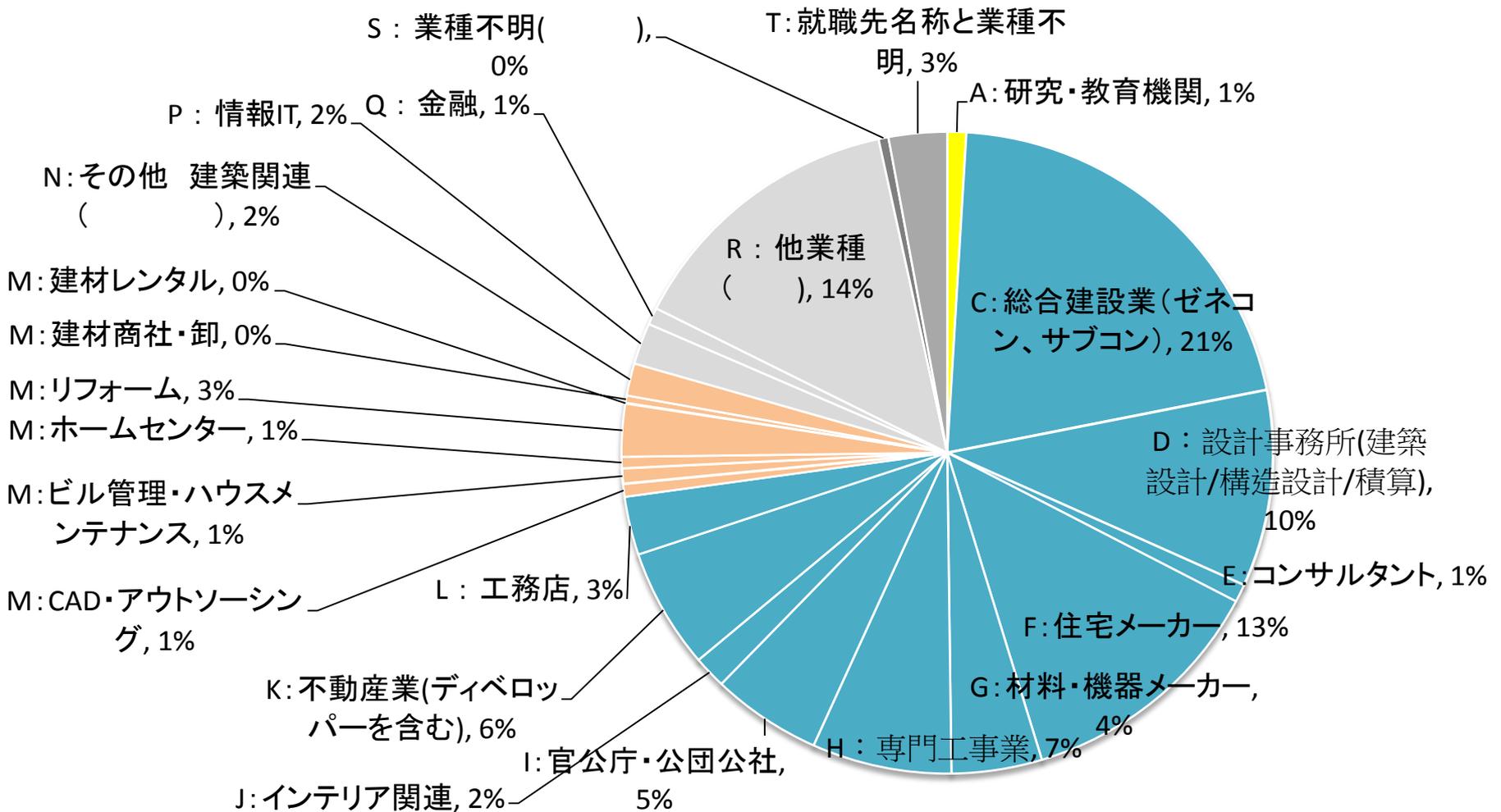
調査対象校全てに結果を送付

今後実施予定の調査研究活動

1. 新学習指導要領の全面実施（2013年度～）に関する調査・検討
2. 「新規高卒者の進路実態調査」

進路調査WG

2011年(就職者 N=2,452)では、建設の主要業種(水色)に72.9%、
 関連業種(オレンジ)に6.2%、他業種に18.3%



建築教育フォーラム

第12回建築教育シンポジウム(建築会館)



- 2012年11月17日開催
- 教育研究論文 8編
- 各WGの活動報告
- 招待講演 川口衛氏(法政大学名誉教授)

建築教育研究論文報告集
—第12回建築教育シンポジウム—
PROCEEDINGS OF 12TH ARCHITECTURAL EDUCATION SYMPOSIUM

No.12 2012.11

第12回建築教育シンポジウムでは、午前の第1部では新たに組織された教育委員会における各小委員会・WGの活動状況について9件の報告が行われた。午後からの第2部では『防災と建築教育』をテーマとして、法政大学の川口衛名誉教授を招聘し招待講演を実施した。また第3部では建築教育に関する応募論文の講演会として「大学教育」「建築教育一般」の2つのセッションで計8件の研究報告の発表がなされ、会場からも活発な討論が行われた。

招待講演	—防災と建築教育—	1
	川口衛 (法政大学名誉教授)	
研究論文		
大学教育		
	関西大学とインドネシア・ガジャマダ大学との建築・都市デザインに関する国際ワークショップ・プログラム	11
	e-Learningシステム「Web Learning Studio」による建築設計教育への応用、その2	17
	—システム思考に基づく体験型授業の実践—	
	大学における建築材料教育の実態に関するアンケート調査	23
	歴史的建築デザインの応用的応用	29
	—学生の作品および感想文からの考察—	
建築教育一般		
	企業内における建築工事教育プログラムの活性化に向けた取り組み	35
	建築家と小学校教員の連携による初等教育における建築教育の実践	41
	—千葉県立生浜西小学校を事例として—	
	小学校総合学習における町家・町並み教育の実践と展開	45
	—舟井町を事例として—	
	日本における子どもの建築教育活動の現状	51
	JIAグローバルシニヤーズ賞2011応募作品に基づく分析	
委員会資料		
	第12回建築教育シンポジウム プログラム	57
	委員会・WG活動報告	
	進路調査WG	58
	工業教育WG	59
	都市計画WG	60
	建築設備WG	61
	材料・施工教育基本構想WG	62
	建築生産系技術者教育WG	64
	市民啓蒙WG	65
	住居教育WG	66
	建築教育WG	67
	建築教育シンポジウム・建築教育研究論文報告集編集履歴	
	平成21年7月30日建築教育委員会決	68
	建築教育シンポジウム・建築教育論文報告集応募原稿取扱い要領	
	平成21年7月30日建築教育委員会決	69
	建築教育委員会および各小委員会の委員構成	71

活発な教育議論から @建築教育フォーラム

- 敷地主義を越えて、まちや地域全体を考える
- 建築主や行政、一人一人の住民が地域を意識する
- 素材マップ、Touch&feelの材料教育
- 市民啓発
- 住教育－新しい住まい・住まい方に関する教科書の執筆を通じて
- 建築計画・設計－敷地を越えて、市民としての見識を育てること
など論点が百出